

答辞

御船山にも新しい命の芽吹きが感じられ、武高坂の桜も今咲かんとばかりにつぼみを膨らませている今日の佳き日。私たち第十五回卒業生のために、盛大で厳粛な式典を挙行していただき、誠にありがとうございます。先生方をはじめ、ご来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、この日を迎えられることを、卒業生一同、大変嬉しく思っております。

さて、三年生の皆さん、卒業を目の前にし、思い浮かぶのはどのような光景ですか。

三年前の春、桜の花が舞う武高坂で同級生と顔を合わせ、明日から始まる高校生活に期待を膨らませました。入学直後は、互いに距離をはかり合いながらの会話でしたが、日々の生活を通し、一か月も経つころには、笑いの絶えない日々になっていました。二年生の冬に修学旅行で訪れた北海道では、一面の雪景色の中、思い切りスキーや観光を楽しみましたね。そして三年生。長かったコロナウィルスによる自粛生活も終わりを見せ始め、ようやく大声で笑い合える日常が戻ってきました。そのような中行われた最後の武陵祭。文化祭では、四年ぶりに復活した模擬店がさらなる活気をもたらし、クラス企画やステージ発表など様々な場面で一人一人の笑顔が輝いていました。体育祭でも、総合優勝を目指し、皆が懸命に汗を流し、声を枯らしました。二年間、先輩方の背中を追ってきた応援合戦。ついに憧れの法被に袖を通すことができました。各団の中や団同士で本気で意見をぶつけ合い、最後には三つの団が一丸となり、初秋の武雄の地に青春の声を轟かせました。

「質実剛健」、「報恩感謝」の校是と、それぞれの志を胸に、学業をはじめ部活動や課外活動に必死に取り組んできた三年間。仲間と互いに切磋琢磨し、高め合ってきた時間は、財産であり宝物です。このような貴重な経験ができたのは、ひとえに周囲の方々の支えがあつてこそのことです。

まずは、下村校長先生をはじめとする先生方。どのような心構えで勉学に勤しむべきかを教えていただきました。学年主任の前田先生は、何百回もの授業や普段のお話の中で、たくさん生き方を教えてくださいました。大きな一歩を踏み出そうとする私たちの心の奥にはいつも、「前田先生がいるから大丈夫だ」という心強さがありました。教科担当の先生方は、どんな質問にもいつも丁寧な答えをくださいました。担任の先生方は、私たちの進路実現のため、朝早くから外が真っ暗になるまで、一人一人に向き合って下さり、最後まで伴走してくださいます。様々な学校行事を成功に導いてくださった生徒会の先生方、部活動で共に汗を流してくださいました顧問の先生方、毎日の生活を支えてくださった事務の先生方、すべての先生方がいてくださったからこそ、ここまで成長することができました。本当にありがとうございます。

そして、在校生のみなさん。今日この場で、直接お話できないのが残念です。みなさんがいなければ、こんなにも充実した学校生活を送ることはできませんでした。部活動や学校行事に、時には笑顔で時には真剣に取り組む姿を思い出すと、私たちが与えたものより大きなものを、私たちはいただいたように感じます。本当にありがとうございます。これからも、自分の目指す姿を思い描きながら、ぜひたくさんのことに挑戦してください。その頑張り

必ず後輩に届きますし、時には学校や町、国の境を超えて、その思いを届けることもできると思います。もし、大きな壁が立ちはだかつて、頼れる先生方、励まし合える仲間と一緒に乗り越えられます。三人寄れば文殊の知恵。もしかしたら誰かが、思いもよらない迂回路を見つけてくれるかもしれません。自分と仲間を信じて、今できることに精一杯挑戦してください。応援しています。

そして、十八年間、嬉しいときも、辛くて心折れそうなきも、私を支え続けてくれた家族のみんな。本当にありがとうございました。毎日家族のために働きながらも、毎晩急いで帰ってきて夜ご飯をつくってくれたお父さん。時には厳しい言葉をいただくこともありましたが、その言葉一つ一つが今の私をつくってくれました。毎日夜遅くまで仕事を頑張り、休みの日には美味しいごはんをたくさん作ってくれたお母さん。毎日のお弁当は、白ごはんが入っていないかったり、お箸が入っていないかったりとハプニングもあったけれど、そんなことも含めて、もう二度と戻ってこない大切な思い出です。今まですっと一緒にいた分、家を離れてほとんど会えない生活を送るのは不安も大きいですが、これまで伝えてもらったたくさんの言葉や愛を胸に、精一杯自分の夢に向かって努力していきますのでこれからもどうか温かく見守っててください。

最後に、これまで三年間、長い人は十七年間、一緒に笑い合って、泣き合ってきた同級生のみんな。寒い日も暑い日も毎日武高坂を上って登校し、互いに励まし合いながら勉強し、この日を迎えることができました。他の誰にも言えないようなことも、大好きな友達にだけは聞いてほしいと思えました。ふと顔を見るだけで、取るに足らないような会話を交わすだけで、どんな悩みも眠気もふき飛んでいきました。自分でも気づかないほどの少しの変化にも気づいて声をかけてくれるような、そんなかけがえのない友達ができて、本当に幸せでした。たくさんの思い出をありがとうございます。

さて、社会に目を向けてみると、新年早々に発生した能登半島地震、長引くウクライナ侵攻、激しさを増すガザ地区での紛争。他にも、テレビや新聞では拾い上げられないほどのたくさんの社会問題がこの世界には山積しています。このような混沌とした時代において、「社会のために活躍する」ということは、とても高度で難しいことのように思われるかもしれませんが。しかし、少し考えてみると、とても小さく感じるような地域課題を解決することがグローバルな課題を解決する糸口になったり、逆に、果てしなく大きいものに思われるグローバルな問題が、身近な地域課題と密接に結びついていたりすることに気がつきます。このような複雑な時代だからこそ、難しく考えすぎず、身近なことからいいので、自分が立てた目標に向かって、希望を捨てずに進んでいくことが大切だと思います。本日、私たちは思い出深いこの武雄高校を巣立ち、それぞれの道を歩んでいきますが、この武雄高校で培った知識や経験を糧に、これからも日々精進していくことをここに誓います。

最後になりますが、これからの武雄高校のさらなるご発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

令和六年三月一日

卒業生代表 大鋸 理乃